

思いやりのある学校

校長 泉田巧人

本校に着任し4年目となりました泉田 巧人(いずみだ よしと)と申します。昨年度は保護者の皆様、地域の皆様、関係諸機関の皆様等、多くの人に支えられ、教育活動を進めていくことができました。本当にありがとうございました。今年度は、新入生36人を迎え、12学級、302人でのスタートとなりました。一人一人を大切にし、児童が「できた」「分かった」が実感できるホスピタリティの高い教育を行ってまいります。

さて、令和7年3月に福生市教育委員会が策定した「福生市教育ビジョン 2025-2029」では、福生市が目指す教育として、

- I 自ら未来を切り拓く力の育成
- II 誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実
- III 子どもたちの学びを支える教職員・学校の力の強化
- IV 生涯を通じた学びによる豊かな地域づくり・人づくり

の四つの基本方針を掲げています。福生市が目指す教育の実現に向け、コミュニティ・スクールを基盤とし、地域と共に成長する学校を目指して、次の三点を柱に学校経営を進めていきます。

- ① 「確かな学力」
教職員、児童が共に学び合い基礎・基本を習得し、もてる力を最大限に発揮できる学校
- ② 「豊かな心」
教職員、児童一人一人が、人権意識をもち自分や他の人を大切にする学校
- ③ 「健やかな体」
教職員、児童が共に健康で、元気のあふれる学校

今年度の本校のテーマを「やさしい学校づくり 第二章 ～思いやり大作戦～」とし、「やさしい学校」を継承しつつ、「思いやり」にも焦点を当て取り組んでいきます。「思いやり」は、思いを向ける相手等の対象があるからこそ成り立つものだと思います。人は一人一人の考えや感じ方、状況等が違います。自分の気持ちや考えだけで行動してしまうと押しつけになる場合があり、「思いやり」ではなくなってしまうこともあるため、相手の気持ちを理解し、共感することが必要です。そして、手を差し伸べる、助ける、優しい言葉や励ましの言葉を掛ける、話を聞く、黙ってそばにしている、見守る等、相手が今何を望んでいるのか推し量り、行動に移すことが大切だと私は思います。このような力を身に付け、相手の立場や状況に応じて寄り添うことができる「思いやり」のある子どもたちになってほしいと考えています。

全ては、ふっさっ子的のために、やさしさに包まれ、思いやりのあふれる学校となるよう教職員一同が一丸となって取り組んでまいります。今年度も変わらぬ御支援と御協力を、どうぞお願い申し上げます。

令和7年4月

